

日 時：2022年10月4日（火）7時～19時30分

視察場所：東京電力福島第一原子力発電所（福島県双葉郡大熊町）

参加者：会員団体4団体から15名

概要：

消費者団体千葉県連絡会（以後、消団連千葉）では、7月に来年には海洋投棄が予定されるアルプス(ALPS)処理水について学習会をおこないました。今回は、7月の学習を受けて、実際の廃炉作業の現状と地域の復興状況を知るために、東京電力福島第一原子力発電所の見学を実施しました。



廃炉資料館に到着。初めに事故の原因と経過、現在の廃炉作業の進捗、汚染水処理などについて説明を聞きました。



最新の映像システムで、事故発生からこれまでの経過をまとめたビデオを視聴しました



廃炉資料館の会議室の様子

その後、東京電力のバスで、2キロほど離れた福島第一原子力発電所へ移動しました。第一原発は、大熊町、双葉町にまたがって設置され、帰宅困難地区を通過して向かいました。最近ようやく一部解除になった地域もありましたが、原発周辺には住民の姿はありませんでした。



汚染された土を保管する中間貯蔵施設
(大熊町夫沢地区)



大熊町熊地区周辺

到着後、東電の見学用バスで、発電所構内を視察しました。



原子炉1号機建屋

建屋前で一旦バスから降りて見学しました



原子炉3号機建屋



地下水や雨水が汚染されてできた汚染水を保管するタンク 今でも増え続けています



初期に使用した汚染水を保管するタンク
急場しのぎに給水タンクや溶接型のタンクを使用したため
老朽化や破損などがすすみ、左の写真の一体型の
新しいタンクにあらためて詰め替えているそうです



高性能 ALPS(多核種除去施設)
汚染水を処理する施設



高性能 ALPS(多核種除去施設)で処理した汚染水
について、東電職員から説明をききました



プラスチックのボトルに、高性能 ALPS(多核種除去施設)で処理した水をいれたものを、手に取って確認しました。ALPS 処理水に含まれるトリチウムは極微弱なので、ボトルを通しての被曝はないとのことでした

◆参加者の感想から

- ・福島第一原発がどうなっているのか知りたかったので、現場を見せてもらったのが大変参考になった。
- ・第一原発構内では作業員の方々の並々ならない苦労もされている中ですが、汚染水の増加・デブリの取り出し・使用済み核燃料の処理が途方もなく時間がかかることがわかりました。原子力の利用について、事故が起きた際に現在の技術で扱いきれない現状を知る事ができました。
- ・構内見学をして、大変なことだと思いました。早く住民が帰還に弾みがつくことが期待できると感じました。